

令和2年10月8日  
国土交通省東北地方整備局  
福島河川国道事務所  
福島県土木部河川計画課

令和元年東日本台風から1年。

～ 阿武隈川流域(福島県内)で再度災害防止を目指した取組を加速 ～

- 令和元年東日本台風では阿武隈川流域において、既往最大の洪水により堤防が決壊するなど各地で甚大な被害が発生
- 国、県、沿川市町村により「緊急治水対策プロジェクト」を1月に策定し、再度災害防止にむけた事業を推進しているところ（10年間で1,840億円の事業）

阿武隈川本川の主要事業（国）

- 決壊した須賀川市浜尾地区の堤防については、6月からの出水期に備えて行っていた復旧工事を5月30日に完了。
- 河道掘削事業を実施中。全体計画約220万m<sup>3</sup>のうち本年度は、約60万m<sup>3</sup>の掘削を完了見込み。
- 本宮市本宮地区は、6月までに堤防嵩上げを実施し、計画堤防の高さを確保。引き続き、年度内完成を目指し現在事業実施中。
- 郡山市御代田地区は、無堤区間の堤防整備に緊急着手。本年5月までに暫定堤防を整備し、計画堤防の高さを確保。年度内完成を目指し現在事業実施中。
- 遊水地整備を推進すべく、令和2年7月1日付けで直轄管理区間を5.6km延伸。検討区間にあたる沿川3町村（鏡石町、矢吹町、玉川村）にご協力頂き、地元の皆様へご説明を開始。今後、現地調査を開始する予定。

阿武隈川支川の主要事業（県）

- 塩野川（伊達市）、濁川（福島市）、谷田川（郡山市）等については、流下能力を向上させ早期の浸水被害の解消・軽減を図るため、堤防嵩上げ、河道掘削等を実施中。



<<発表記者会：福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ、郡山市記者クラブ>>

【問合先】○国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

福島県福島市黒岩字榎平36 TEL024(546)4331(代)

事業対策官 平舘 淳一(内線208) 工務第一課長 木村 潤爾(内線311)

○福島県 土木部 河川計画課

福島県福島市杉妻町2-16 TEL024(521)1111(代)

河川計画課長 鈴木 秀人

# 「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

- 令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、流域全体で甚大な浸水被害となった。
- 今後、関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策を行うことにより、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指す。

## ①河川における治水対策の推進

【ハード整備】約1,840億円

- 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生
- 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

＜主なメニュー案＞

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダムの洪水調節機能強化



08.08 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)

相互に  
連携

土地利用や避難体制を意識した事業推進  
施設整備計画を踏まえた避難計画等

【ソフト対策】

## ②減災型都市計画の展開

- 沿川都市の都市化の進展により低平地の新築住宅地等での浸水リスクが顕在化
- 沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

＜主なメニュー案＞

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策(例:雨水貯留施設等)
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



下水道事業による雨水貯留施設の例(郡山市)

## ③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

- 本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響
- 的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

＜主なメニュー案＞

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

## ④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

- 本川上流部では、青水が支川の氾濫にも影響
- 本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

＜主なメニュー案＞

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

## ⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

- 地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信 等



# 緊急治水対策プロジェクト 主要事業箇所（R1～R2年度実施分）



凡例  
 ■ 堤防決壊箇所(国)  
 ■ 堤防決壊箇所(県)  
 ■ 遊水地  
 ■ 大正管理区間

**⑫ 河道掘削・樹木伐採**  
 <全川>  
 本年度は60万m<sup>3</sup>の掘削を目指し実施中

**⑬ 河川監視カメラ設置**  
 <全川>  
 9月時点で46基追加設置済

**⑭ 治水協定の実施**  
 <全川>  
 利水ダムも含め、事前放流等の治水協定を5月に締結済

# ①【須賀川市】浜尾地区 堤防決壊箇所 本復旧工事

○東日本台風で決壊した浜尾地区の堤防について、6月からの出水期に備えて行っていた本復旧工事を5月30日に完了。

洪水を貯留した浜尾遊水地 (R1.10.14)



決壊の様子 (R1.10.13)



○被災直後の様子



○本復旧工事完了後の様子



阿武隈川

阿武隈川

## ②【本宮市】 本宮地区 左右岸築堤事業

- 6月までに嵩上げ対策を実施し、計画堤防の高さを確保したところ。
- 引き続き、残りの築堤工事を進めるとともに、左岸地区の宅地側道路及び広場・遊歩道、樋門整備などを進め、年度内の事業完成を目指している。



### 大規模洪水により浸水被害が発生(令和元年東日本台風)



対策前(東日本台風前)



嵩上げ対策状況



計画堤防の高さを確保  
(令和2年6月中旬)

左岸地区 築堤工事完了状況



### ③【郡山市】 御代田（みよた）地区 築堤事業

○東日本台風による浸水被害を受け、無堤区間の堤防整備に緊急着手。  
 ○本年5月までに暫定堤防を整備し、計画堤防の高さを確保。年度内完成を目指し、現在、事業実施中。



## ④河道掘削・樹木伐採

## (例：福島市 鎌田地区)

○阿武隈川本川各地で河道掘削に着手し、現在推進中。全体計画約220万m<sup>3</sup>のうち、本年度は約3割となる約60万m<sup>3</sup>の掘削を目指し実施中。また、樹木伐採は、本年度は約45万m<sup>2</sup>を目指し実施中。



### (工事状況)



バックホウによる掘削



## ⑤河道掘削・樹木伐採 (例：須賀川市 釈迦堂川)

○阿武隈川本川各地で河道掘削に着手し、現在推進中。全体計画220万m<sup>3</sup>のうち、本年度は約3割となる60万m<sup>3</sup>の掘削を目指し実施中。また、樹木伐採は、本年度は約45万m<sup>2</sup>を目指し実施中。

### 大規模洪水により浸水被害が発生(令和元年東日本台風)



令和元年10月13日13時環境撮影(国土地理院)

写真①(未来大橋下流側)

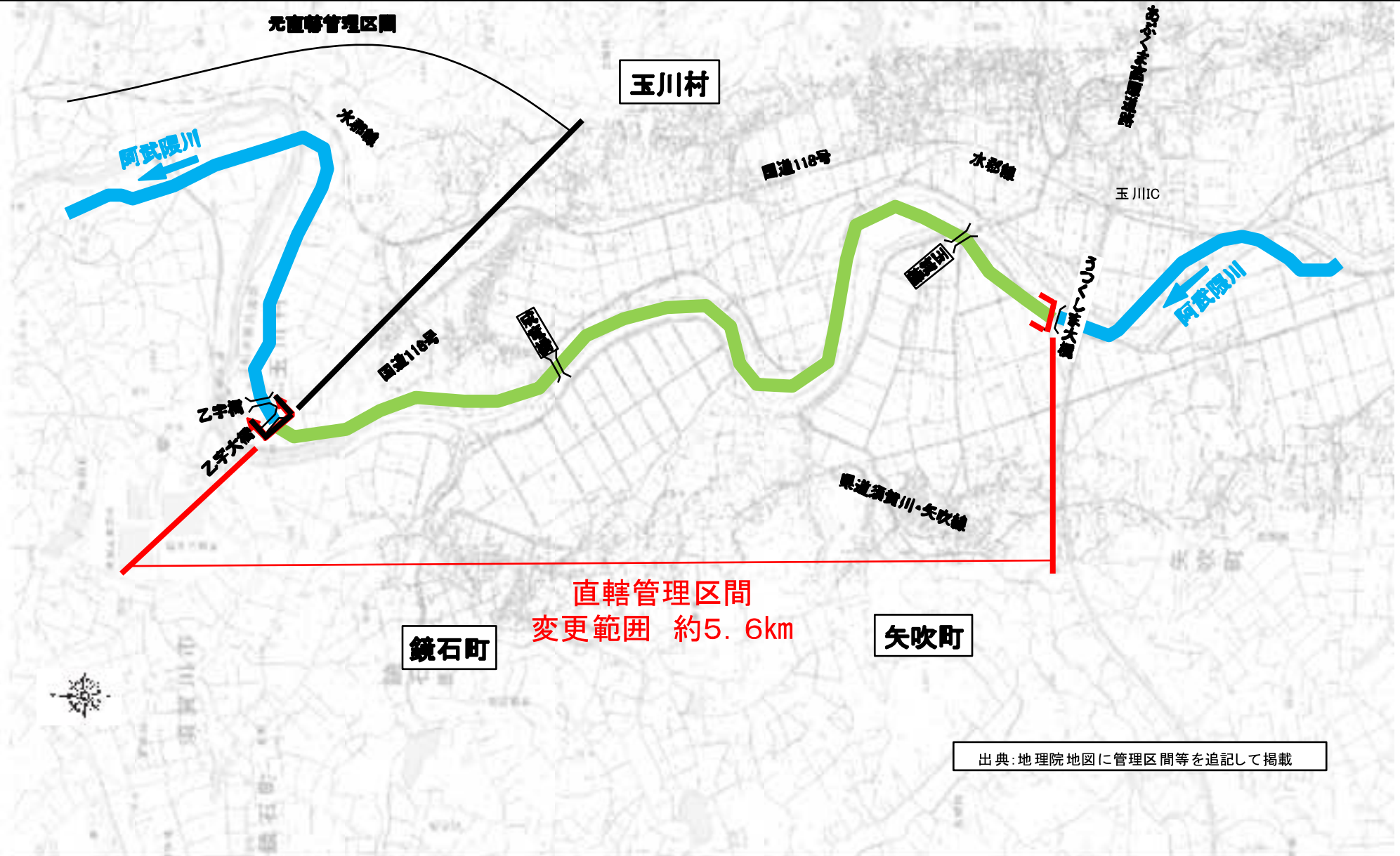


写真②(未来大橋上流側)

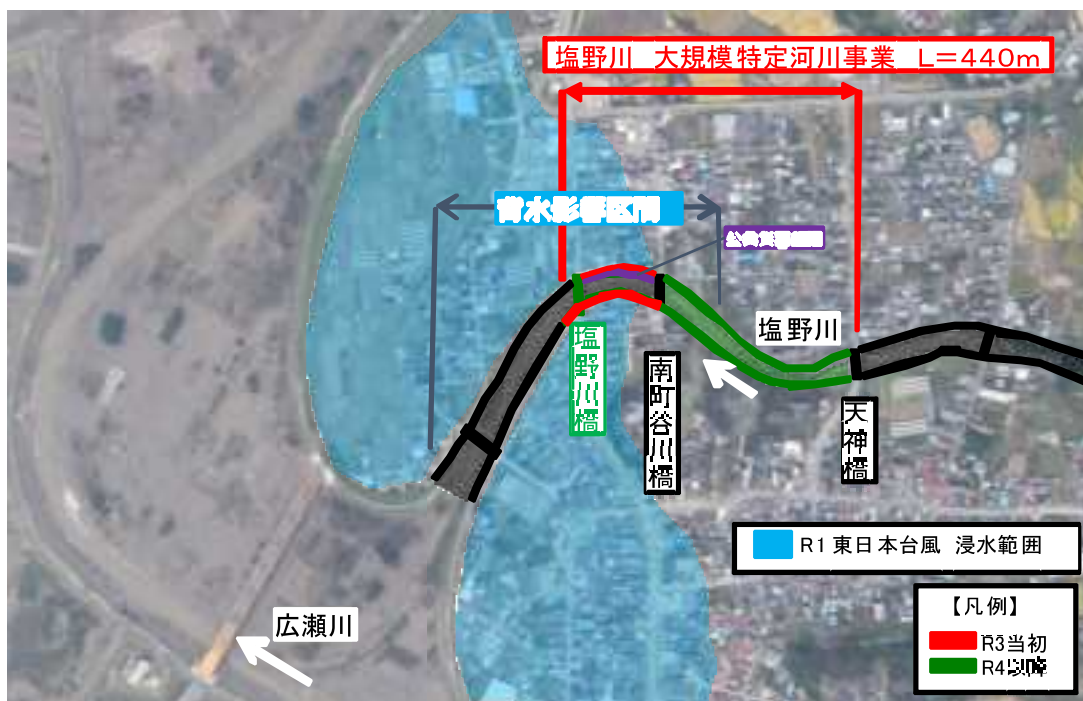


## ⑥【鏡石町、矢吹町、玉川村】直轄管理区間変更範囲

- 上流部に遊水地群を整備していくため、令和2年7月1日付けで国管理区間を変更。
- 検討区間にあたる沿川3町村(鏡石町、矢吹町、玉川村)にご協力頂き、地元の皆様へご説明を始めたところ。今後、現地調査を開始する予定。



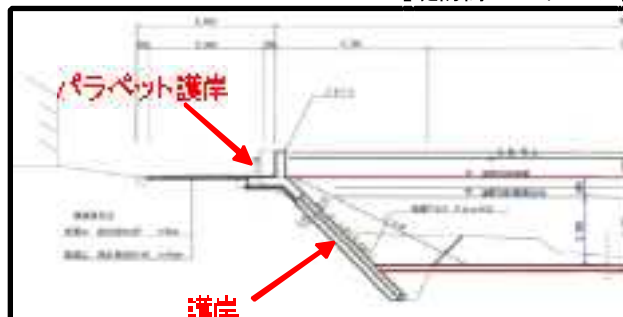
- 令和元年東日本台風による浸水被害を受け、流下能力を向上させ早期の浸水被害の解消・軽減を図るため、堤防嵩上げ、河道掘削等を実施する。令和2年度は先行して公共災害復旧工事(被災した堤防の復旧)を実施中。
- 現在、事業区間全体における測量設計、国道349号塩野川橋の設計を実施している。



・公共災害復旧工事



【堤防嵩上のイメージ】



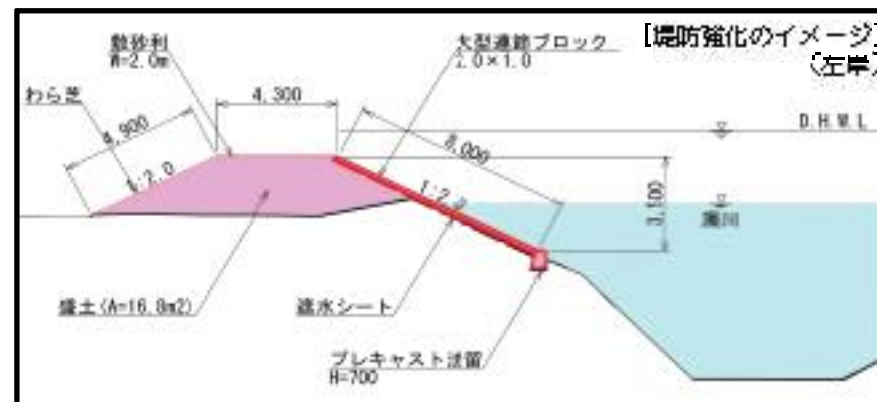
○令和元年東日本台風による浸水被害を受け、流下能力を向上させ早期の浸水被害の解消・軽減を図るため、堤防嵩上げ、河道掘削等を実施する。令和2年度は先行して阿武隈川合流部付近の堤防強化工事を実施した。  
○現在、事業区間全体における測量設計、及び橋梁架替に向けた設計を実施している。



・堤防強化工事



・災害復旧工事



- 令和元年東日本台風による浸水被害を受け、流下能力を向上させ早期の浸水被害の解消・軽減を図るため、堤防強化、河道掘削等を実施する。
- 本年6月までに一部の河道掘削・伐木、天端舗装工が完了。



**・河道掘削・伐木**



**・天端舗装工**



○逢瀬川沿川の人家等への浸水被害の軽減を図るため、令和8年度完了を目標として事業を進めている。

○令和2年度においては、逢瀬橋から咲田橋までの築堤護岸の完了を目指し実施中。

## ・逢瀬橋～大窪橋



## ・大窪橋～咲田橋



# 社川

石川町山形地内



白河市表郷八幡



**破堤箇所等緊急度の高い箇所について令和2年度の完了に向け鋭意施工中**

# ⑫阿武隈川 簡易型河川監視カメラの概要

「川の水位情報」

<https://k.river.go.jp/>

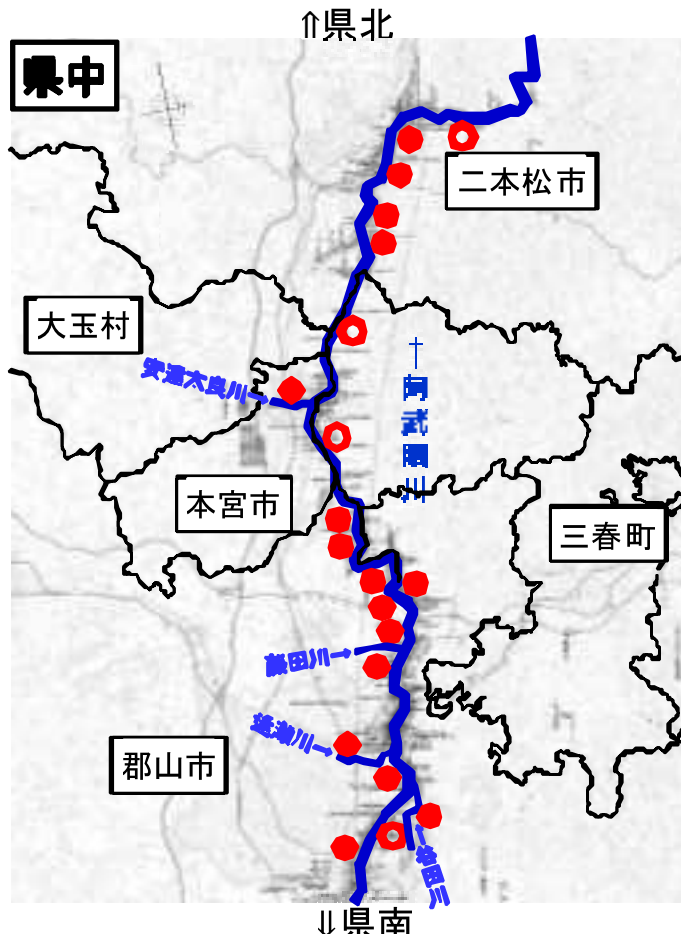
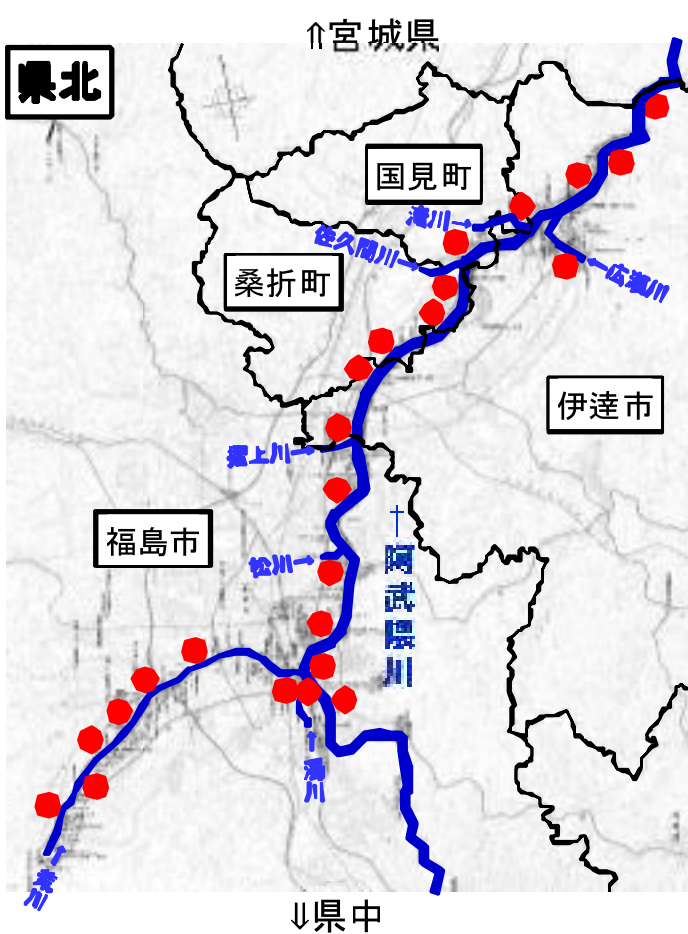


- 河川監視カメラは、阿武隈川流域(福島県内)で63基(国)を設置していた。
- 今回、国管理区間の阿武隈川、荒川、釈迦堂川、笹原川、広瀬川、松川に計42基設置、福島県管理区間の安達太良川、逢瀬川、谷田川、濁川に計4基設置し、運用を開始した(今後、10月中に更に11基を追加設置し運用を開始する予定)
- また、10月中に仮設カメラを約13基、阿武隈川国管理変更区間(鏡石町、矢吹町、玉川村)に設置予定
- 今後も、バックウォーター対策もふまえ、国・県で協力しカメラ・水位計の増強を図る。



## 新規設置位置図

- : カメラ設置済 (46基)
- : カメラ設置予定 (11基)



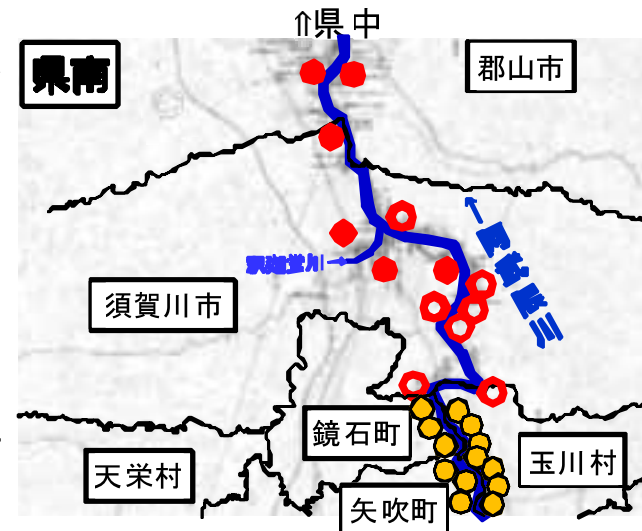
### 【特徴】

**屋外に容易に設置**

- ・電源・通信ケーブルの確保不要(無線通信、太陽電池等を利用)

**インターネットを経由して画像を収集**

- ・水位計のデータ等と併せて提供
- ・撮影頻度は5分間隔



- : 仮設カメラ(設置予定箇所)
- 〔当面、国・沿川自治体で確認できる体制とし、システム構築後、「川の水位情報」等で公開予定〕

# 13 阿武隈川水系の治水協定締結について

- 利水ダムも含め、事前放流等の治水協定を5月に締結済。
- 阿武隈川水系では、水害対策のために使える容量の割合がそれまでの35.4%から、締結後に49.8%へと向上。

既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた基本方針に基づく「協議の場」

【構成員】

- 河川管理者
  - 阿武隈川下流---
    - ・国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所
    - ・宮城県土木部
  - 阿武隈川上流---
    - ・国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所
    - ・福島県土木部

○ダム管理者

- 阿武隈川下流---
  - ・国土交通省東北地方整備局七ヶ宿ダム管理所
  - ・宮城県農政部
  - ・宮城県大河原地方振興事務所
  - ・村田町
  - ・白石市
  - ・白石市土地改良区
- 阿武隈川上流---
  - ・国土交通省東北地方整備局摺上川ダム管理所
  - ・国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所
  - ・農林水産省東北農政局阿武隈川土地改良調査管理事務所
  - ・福島県農林水産部
  - ・東北電力(株)福島発電技術センター

○関係利水者

- 阿武隈川下流---
  - ・宮城県企業局
  - ・柴田町土地改良区
- 阿武隈川上流---
  - ・福島県農林水産部
  - ・伊達西根堰土地改良区
  - ・郡山市上下水道
  - ・本宮市
  - ・日本化学工業(株)福島第二工場
  - ・白河地方広域市町村圏整備組合
  - ・郡山市東部土地改良区
  - ・三春町土地改良区
  - ・安達疏水土地改良区
  - ・福島地方水道用水供給企業団
- ・福島県商工労働部
  - ・大玉土地改良区
  - ・田村市
  - ・三春町

※治水協定では、河川管理者、ダム管理者、関係利水者を兼任している場合あり  
 ※治水協定は、阿武隈川下流(宮城県内)と、阿武隈川上流(福島県内)で締結されている



凡例	
	国土交通省所管(直轄管理)ダム[目的]
	国土交通省所管(道府県管理)ダム[目的]
	国土交通省所管(道府県建設)(再)ダム[目的]
	利水ダム[目的、管理者]
	基準地点
	主要な地点
	県境
	市町村境
	流域界
	大臣管理区間

○水害対策に使える容量(16ダム)

締結前35.4% → 締結後49.8%  
 (約4,520万m<sup>3</sup>の増加)

ダム名	有効貯水容量(千m <sup>3</sup> )	洪水調節容量		洪水調節可能容量		水害対策に使える容量(有効貯水容量に対する割合)	基準降雨量(mm)
		容量(千m <sup>3</sup> )	有効貯水容量に対する割合	容量(千m <sup>3</sup> )	有効貯水容量に対する割合		
●七ヶ宿	99,500	35,000	35.2%	12,960	13.0%	48.2%	106
●三春	36,000	28,000	77.8%	12,150	33.8%	111.5%	99
●摺上川	148,000	47,000	31.8%	1,320	0.9%	32.6%	96
●堀川	5,200	1,800	34.6%	1,230	23.7%	58.3%	72
○村田	1,507	0	0.0%	720	47.8%	47.8%	144
○蓬萊	1,448	0	0.0%	1,450	100.1%	100.1%	138
○千五沢	11,600	0	0.0%	9,100	78.4%	78.4%	71
○信夫	1,284	0	0.0%	1,290	100.5%	100.5%	138
○犬神	1,088	0	0.0%	510	46.9%	46.9%	111
○西郷	3,064	0	0.0%	1,650	53.9%	53.9%	72
○山ノ入	1,259	0	0.0%	330	26.2%	26.2%	82
○藤倉	879	0	0.0%	130	14.8%	14.8%	88
○岳	850	0	0.0%	520	61.2%	61.2%	105
○川原子	2,150	0	0.0%	620	28.8%	28.8%	124
○龍生	846	0	0.0%	850	100.5%	100.5%	71
○三ツ森溜池	720	0	0.0%	340	47.2%	47.2%	100
合計	315,394	111,800	35.4%	45,170	14.3%	49.8%	-

●治水 N 流水の正常な機能の維持 A:農業用水 W:水道用水 I:工業用水 P:発電

※●:多目的ダム、○:利水ダム

# (参考) 「第1回 阿武隈川上流流域治水協議会」開催

## 1. 概要

○昨今の気候変動による災害の激甚化・頻発化に対応するため、流域全体のあらゆる関係者(国・県・市町村・企業・住民等)により、流域全体で行う治水対策「流域治水」を進める必要があり、流域治水協議会を開催した。

## 2. 日時／実施状況

- ▶ 日時 : (県北) 令和2年9月15日(火)  
(県中・県南) 令和2年9月16日(水)
- ▶ 場所 : WEB会議(福島河川国道事務所3F)
- ▶ 出席者 : 福島県・市町村長をはじめ28名が出席

## 3. 会議内容

- 規約承認
- 気候変動を踏まえた「流域治水」への転換について
- 各機関の取り組みについて
- 阿武隈川水系流域治水プロジェクト中間とりまとめ(案)
- 意見交換

## 各関係機関の説明状況(一部抜粋)



平田村  
(堀村 和明 村長)



沼島市  
(木曾 浩 市長)



二本松市  
(星保 憲一 市長)



伊達市  
(須田 博行 市長)



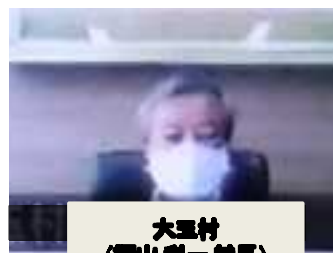
本宮市  
(高崎 健伸 市長)



桑折町  
(高橋 宣博 町長)



国見町  
(水田 久雄 町長)



大玉村  
(野山 利一 村長)



郡山市  
(品川 高星 市長)



須賀川市  
(橋本 克也 市長)



国村町  
(木田 仁一 市長)



鏡石町  
(遠藤 栄作 町長)



石川町  
(塩田 金次郎 町長)



浅川町  
(江田 文男 町長)